

第2部 事業報告

調布市中学生広島平和派遣参加者紹介



氏名	ふりがな	中学校名	学年
林 公飛	はやし きみと	開成中学校	1 年
村山 翔一	むらやま しょういち	駒場東邦中学校	1 年
高畠 悠太	たかばたけ ゆうた	第三中学校	1 年
川嶋 琉誠	かわしま りゅうせい	第四中学校	1 年
小柳 雄平	こやなぎ ゆうへい	第五中学校	2 年
進士 拓真	しんじ たくま	第五中学校	2 年
小竹 里奈	こたけ りな	第四中学校	1 年
原田 桜子	はらだ さくらこ	神代中学校	1 年
西澤 徳香	にしざわ のりか	東京学芸大学附属小金井中学校	1 年
友永 英利菜	ともなが えりな	帝京大学中学校	2 年
久保田 陽花	くぼた はるか	第四中学校	2 年
草竹 美穂	くさたけ みほ	東京創価中学校	2 年
中本 美羽	なかもと みう	第八中学校	2 年
安岡 弥香	やすおか みか	第六中学校	3 年
新行内 音々	しんぎょううち ねね	第七中学校	3 年

事前説明会

申込者向け説明会

実施日：平成27年5月24日（日）

内容：

広島平和派遣の目的と体験スケジュールの説明を行いました。

説明会後に、申込受付を実施しました。



参加者向け説明会

実施日：平成27年7月27日（月）

内容：

参加者の自己紹介と行程の確認を行いました。

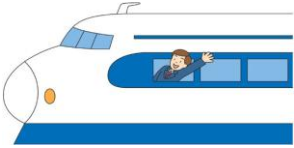
参加者には、多摩地域平和事業連絡会※で作成したグッズや調布市制施行60周年の記念ポロシャツを配付し、平和記念式典で身に付けました。



※多摩地域平和事業連絡会：東京都市長会の多摩・島しょ広域連携活動助成金を活用し、平和事業を推進するため、東京都多摩地域26市で組織した連絡会です。



行程表

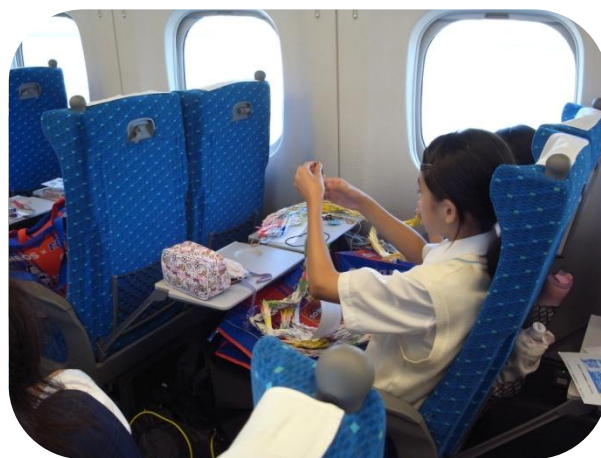
5日 (水)	調布駅 ⇒ 東京駅 ⇒ 広島駅 ⇒ 宿泊先 ⇒ 原爆ドーム (新幹線のぞみ15号/車内昼食) ⇒ 原爆の子の像 ⇒ リバークルーズ (折り鶴を捧げました) (元安橋から乗船) ⇒ 本川小学校・平和資料館 ⇒ 宿泊先 (路面電車) ⇒ 夕食(月明り) ⇒ 宿泊先 (穴子めしとカキフライの夕食) 
6日 (木)	宿泊先 ⇒ 平和記念式典(8:00~8:50) ⇒ 広島平和記念資料館 ⇒ 昼食(平和記念公園内セレナード) (ハーフバイキング) ⇒ 広島城 ⇒ 宿泊先 ⇒ 夕食(酔心新幹線口店) (釜めしの夕食) ⇒ とうろう流し会場 ⇒ 宿泊先 (「とうろう」に願いをこめて流しました) 
7日 (金)	宿泊先 ⇒ 被爆体験者講話(広島市文化交流会館) (被爆体験者の兒玉さんからお話をうかがいました) ⇒ 昼食 ⇒ 広島駅 (広島お好み焼きの昼食) ⇒ 広島駅 ⇒ 東京駅 ⇒ 調布駅 (新幹線のぞみ28号) 

写真による行動記録

1 日目



新幹線に乗車（東京駅）



千羽鶴の短冊に平和の願いを書く参加者



宿泊先に到着



原爆ドームを見学



原爆の子の像で平和の鐘を鳴らす参加者



折り鶴を捧げる参加者



リバークルーズ(船内)



リバークルーズ(船外・原爆ドーム)



本川小学校・平和資料館を見学



本川小学校(校門)



路面電車を待つ参加者



夕食会場(式典に向けて1人ずつ発表)

2日目



平和記念式典会場



式典会場で黙とう



平和記念資料館を見学



平和記念資料館の展示



とうろうに貼る和紙を準備



とうろうに書き入れる平和への願い



全国の市長から寄せられたメッセージ



広島城見学



とうろう流し会場



とうろう流しを待つ参加者



とうろう流しを待つ参加者



とうろうを流す参加者

3 日 目



被爆体験者の兒玉さんとの集合写真



被爆体験の講話を熱心に聞く参加者



3 日目の昼食会場



広島風お好み焼き

被爆体験者による講話

こだま みつお

講師 児玉 光雄 さん

日時 平成27年8月7日（金）午前9時30分から10時30分まで

場所 広島市文化交流会館（ルミエール）

被爆体験

中学1年生であった12歳の時、爆心地から870m離れた学校の校舎内で、自習待機していたときに被爆。

講演内容

「放射線と闘う至近距離被爆者・命の記録 被爆者・ヒロシマからのメッセージ」をテーマに、まず自身の染色体について、説明していただき、被爆により2対の染色体が左右非対称となっていることがわかった。

被爆体験では、原爆投下直後の広島第一中学校の様子や倒壊した校舎から奇跡的に脱出したお話をうかがった。そして、助けられなかった友人への思いを胸に、自宅まで帰ることとなったが、その道のりで、やけどを負った被爆者の様子や赤く燃える広島の状況について詳細に話していただいた。

その後、急性原爆症となった児玉さんは、脱毛や高熱など体に異常が生じたが、奇跡的に学校に登校するまで回復した。それから、原子爆弾の放射線による影響を数値やデータから説明いただき、爆心地から1km以内の放射線の怖さについて、お話しいただいた。

最後には、放射線被害から核兵器のない世界を訴えていた。



見学先紹介

原爆ドーム

原爆ドームは、第2次世界大戦末期に人類史上初めて使用された核兵器により、被爆した建物です。ほぼ被爆した当時の姿のまま立ち続ける原爆ドームは、核兵器の惨禍を伝えるものであり、時代を超えて核兵器の廃絶と世界の恒久平和の大切さを訴え続ける人類共通の平和記念碑です。



原爆の子の像

2歳のときに被爆し、白血病で亡くなった佐々木禎子さんの死をきっかけに、原爆で亡くなった子どもたちの霊を慰め平和を築くための像をつくろうという運動が始まり、全国からの募金で平和記念公園内に「原爆の子の像」が完成しました。その後この話は世界に広がり、今も「原爆の子の像」には日本国内をはじめ世界各国から折り鶴が捧げられ、その数は年間約1千万羽、重さにして約10トンにもものぼります。



広島平和記念公園

原子爆弾は、この地区の頭上で炸裂しました。地区の住民はもとより、当時この付近で建物疎開作業に従事していた多くの国民義勇隊や動員学徒が非業の死を遂げ、街並みも一瞬のうちに消え去りました。

昭和24年8月6日の「広島平和記念都市建設法」の制定にともない、この地区一帯は平和記念施設として整備されることとなり、現在の平和記念公園に生まれかわりました。



広島平和記念資料館

広島平和記念資料館は、被爆者の遺品や被爆の惨状を示す写真や資料を収集・展示するとともに、広島の被爆前後の歩みや各時代の状況について紹介しています。



広島城

広島城は、原子爆弾により天守閣をはじめ城内の建造物は全て壊滅しました。現在の天守閣は、昭和33年に外観を復元して建造されたもので、内部は武家文化を中心に紹介する歴史博物館になっています。



とうろう流し

とうろう流しは、戦後まもなく、原爆で命を落とした人々の遺族らの手作りで始まったのが由来です。夕刻から元安川に漂う幻想的な灯かりは、被爆者の霊を慰めるとともに、今を生きる人々の平和への願いをあらためて強くさせています。現在このとうろう流しは、原爆の残り火を採用して継承されており、誰でも参加できる慰霊行事となっています。

